

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4390101048		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会		
事業所名	グループホーム 第二ほたる家		
所在地	熊本市西区河内町船津946		
自己評価作成日	平成30年10月 27日	評価結果市町村受理日	平成31年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	平成30年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム第二ほたる家は、海や山、雄大な自然の中で四季を感じながら落ち着いた笑顔で暮らせる環境です。また公民館、病院、コンビニ等が近くにあり、暮らしやすい環境にもあります。スタッフは日々の研修を惜しまず、常に介護の質の向上に努めています。毎日の日課には家庭と同じように掃除、洗濯干し、食事作り、買い物、洗濯たたみなどを実施しています。余暇活動としては書道、音楽活動、作業活動などを行い、同法人内のグループホームと共同で、運動会、音楽祭、収穫祭、お花見などの活動を行なっています。また、平成27年より認知症カフェを継続して毎月開催し、ご利用者や地域、ご家族の方に声を掛け、ゆっくりとした時間を過ごしています。運営推進会議においては、ご利用者、ご家族と一緒に参加できる環境を整えて、地域の方と楽しく交流できるように会議後にコミュニケーションの場を設けて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い丘に位置し、海や山など自然豊かな環境の中季節感を常に感じることができる、緑に囲まれた事業所です。開放感のあるホールの大きな窓からは夕日を楽しむことができます。地域住民との交流も分け隔てなく定期的に行われおり、特に防災の意識は高く、消防のみならず警察や地域住民が参加して実施されています。利用者や家族の意向に沿った支援をすることへ、職員が一人ひとりが意識を持ち、積極的に取り組んでいます。法人が設立した青い家を中心に、地域の拠点としての役割を担っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「私たちは利用者も職員も誇れる施設を目指します」 職員は毎週月曜日に理念の唱和を行ない、地域や家族には運営推進会議にて発信を行なっている。	定期的に理念の唱和を行うことで、意識付けされています。職員自ら意見を述べながら、よりよい施設を目指す努力が払われています。	理念の共有を通じ、地域社会における事業所の存在感や意義が伝わり、行事や外出などに活かされることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへ週1回の食材の買い物に行っている。法人施設を利用し、認知症カフェを月に1回実施している。例年行事に参加させて頂き、交流を深めている。	同法人が設立した地域に密着した認知症カフェでの体操や年間行事、公民館活動に参加し交流を図っています。	全ての利用者が公民館活動や地域活動に参加することで、相互の社会資源の関係性を深められるように期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は地域の徘徊模擬訓練に参加。今年度は認知症サポーター養成講座を開催予定である。認知症に対する考え方、地域の方が行える取り組みなどを広報予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事やインシデント・アクシデントレポートの報告、地域の方や家族との意見交換を行っている。意見は職員間で共有し、ミーティングで話し合いを行なっている。今年度より身体拘束適正化検討委員会を設置した。	2か月に1回実施し、自治会長や消防や警察など公的機関も参加することで、防災にも協力を得ています。また、事業所内での行事やリスクマネジメントなどの報告、身体拘束への理解や啓発を行い、サービスの向上に活かされています。	地域に向けた身体拘束の説明会だけではなく、介護予防の在り方についての取り組みなどを行うことで、地域住民の方々と交流も幅広く行えるのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは定期的に連絡を取り、情報の共有、また研修案内などを頂いている。熊本市へは事故の報告、介護支援相談員の訪問も定期的に行われている。	地域の情報発信の拠点的作用であり、同法人内の包括支援センターとの連携もあり、協力体制が構築できています。包括支援センターを通じ、行政との連携も図れています。	市や県の情報は地域包括支援センターのみならず、他の地域包括センターと連携を深め、多角的な視点が持てるといいですね。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	館内夜間以外は玄関を常に開錠し、身体拘束についても行われていない。法人内の身体拘束廃止委員としてスタッフも活動を行い、勉強会の開催や、身体拘束に関し周知徹底に努めている。	法人内の身体拘束廃止に向けた活動に対する取り組みにも積極的に参加し、職員一人ひとりの意識付けに取り組んでいます。	具体的な策を多く出し、理解できるような勉強会を実践されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員が主に虐待防止に関する勉強会をミーティングにて行っています。また、法人内の勉強会に積極的に参加し、虐待ゼロのホーム作りを行なっています。入居者の方への声かけ等も統一された敬語を使う様努力しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別の学習と共に、法人内にて勉強会を行い、知識を高めている。また、ご家族の方にも制度の活用の提案を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族に文言を分かりやすい様に説明し、ご納得頂いたうえサービスを提供している。契約以外にも普段の面会時や会議の機会に、ご家族から要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用してご利用者、ご家族からの意見、要望等の聞き取りを行なっている。玄関には意見箱を設置し、様々な意見を運営に反映させている。	利用者や家族の意見は必ず一度検討し、その後書面などで返答し、運営に反映されています。	個人の意見は全ての共通の意見とし、改善策を含め、すべての利用者や家族に発信することで事業所の取り組み知ってもらうことができ、信頼を深めることにつながるでしょう。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフミーティングを開催し、その際に出た意見を日常の業務に反映している。また、法人内に安全衛生委員会を設置しており、年2回ストレスアンケートを実施して職員の傾聴の場を設けている。	年に2回ストレスアンケートを実施し、職員へのソフトな対応がなされています。また、職員からの意見は必ず話し合い、業務改善へとつながられています。	アンケートの調査結果は法人全ての職員ともに情報が共有できると、早めの対処につながるのではないのでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、就業態度や職能評価の測定、目標に対する評価を行い、年功序列ではなく努力や能力に応じて昇給や賞与に反映されている。法人内の教育委員会にて研修参加等の環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育の年間計画を立てる際に、各々スキルに見合う業務分担、外部研修計画などを立て実施している。また、職能要件書を活用し、スキルの把握と必要な指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行ったり、他のグループホームの見学等も行っている。法人内の取り組みとして、同法人内のグループホームと2ヶ月に1回会議を行い、情報交換、合同での行事の企画、マニュアルの見直しなどを実施している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーからの情報提供書をもとに、ご本人やご家族からの話を共有し、生活歴、既往歴等から今後の課題を見出す様にしている。入居後の1ヶ月は特に密接に関わり、安心して生活して頂ける様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず来所して頂き、環境面及び雰囲気を実際見て確認して頂いている。入居への経緯を把握し、お越しの際は日頃の様子等お伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネジャーと連携を図り、ホームへの入居が適切か話し合いの機会をもち、希望があれば短期入所サービスを勧めている。他のサービスが適切と判断される場合は可能な限りの情報提供を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活（掃除、洗濯、後片付け、調理、洗濯干し、洗濯たたみ、買い物など）見守りも行い、声掛け等にも配慮しながら職員も一緒に作業に参加させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活必要物品不足時の買い物や、衣替え、病院受診、外出や外泊等の家族支援を継続いただき、本人と家族との関係が絶たれることがないように支援している。家族へは必要な助言を行い、常に相談を受けつけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近くにドライブに出かけたり、地域の行事に参加するなどし、知り合いとのコミュニケーションの機会を作っている。面会も含め、外出・家族の方との食事会等を実施し、生活感が途切れないように支援している。	家族の面会時や誕生日など馴染みの人を含めての食事会を通じて、途切れない関係性作りの支援を行っています。	利用者が新しい環境に1日も早く馴染める工夫と、地元の方々との交流で新しい馴染みの関係ができるような支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯や掃除などの日課をご利用者同士協力しながら取り組める環境を作っている。関係が作られるまでは職員が間に入り、孤立しない様に声掛けを行って、共に出来る活動を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者の状態確認のため定期的にご家族や担当ケアマネジャーと連絡を取り、必要に応じて面会を行い、経過を確認している。フォローにより再入居の申し込みも頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営推進会議等を活用し、要望をお聴きしたり、個別にも各居室担当者を中心に今後の意向等伺い、ニーズの把握に努めている。要望は可能な限り実現出来るように配慮している。	管理者と計画作成者がアセスメントを行い、思いや意向の把握に努めています。ケア担当者会議時に家族の意向、ニーズを拾い、担当職員の意見も集め、可能な限り実現できるよう配慮されています。	ケア担当者会議は場所にこだわらず、本人の自宅などで行うことで、より新しいニーズの発見につながるのではないのでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを考慮したうえで、ご本人、ご家族に生活歴や生活環境をお聴きして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の活動を週間化した表を活用し、日々の生活状況を記録している。申し送りにて現状をスタッフ間で確認し合い、過介護にならないような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご家族、入居者の方のニーズを踏まえて作成している。3ヶ月に一回、必要に応じて随時のモニタリングをケアマネと居室担当者が行い、ミーティングの場で職員が出した意見、結果をプランに反映させている。また、ご家族、入居者の意見等に変わりが無いがヒアリングも行っている。	ケアプランは半年に1度、または更新時に見直ししています。具体的な対応方法などは随時検討し確認されています。またご家族や利用者の意見なども聞き取りを行いながらケアプランに反映されています。	具体的ケアマニュアルを整理することで、ケアの統一を図られるといいですね。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の週間表に活動内容を記録し、ケース記録には活動の詳細や気づき、工夫したこと等を残している。記録は毎日読む習慣をつけ、課題については毎日の申し送り時やミーティングの際に話し合い、実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診や外出支援はご家族に代わり行う等、ご家族の方が負担に感じられないようにホームで出来る事は対応を行なっている。リハビリに関して、法人内のPTを派遣してもらい、身体機能の評価を検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力病院との密な連携を行い、ご利用者の心身の状態を共有している。近隣の地域資源を日常生活や防災活動に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や希望される受診先は入居時に確認をしている。ほとんどの方が往診の対応となっているが、他医療機関に受診希望される方は受診前後にご家族と連絡を取り、調整を行なっている。	近隣の協力病院より月に1回往診があり、必要時の専門病院も受診なされています。また、他の医療機関を希望される方は家族と連携を図りながら調整が行われ、スムーズな対応がなされています。	主治医からの指示や変更は明確に分かるように記録を残し、受診結果は家族に書面で伝え、信頼関係を深めることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の気付きを必ず法人内の看護師へ報告相談し、確認したうえで受診を行なっている。日常生活での様子や入浴時の皮膚状態、夜間の入眠状態等、細かい報告がされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が付添い、サマリーを記入し情報交換を行なっている。入院中の状況確認や退院に向けてのリハビリ状況などの確認を行い、退院後に向けて支援を行なっている。協力病院とは定期的に相談するなど連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在まで、看取りの対象者はいないが、入居時には重度化した際や、看取りに関する意向確認を行なっている。希望される内容を把握し、ホームで出来る限りの事は対応して行きたいと考えている。	入居時に重度化時の意向確認は行われ、看取りに対する体制作りに取り組んでいます。	医療機関との連携の更なる深まりを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変に関しては法人内の研修会、ホーム内のミーティング時に勉強会を行い、訓練を実施している。異常を早期発見できるよう日頃より気をつけている。マニュアルの確認も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域住民の方にも協力頂き、昼間・夜間想定訓練を毎月実施している。近くのコンビニ、公民館、消防団の方の協力も頂いている。	地震や津波などの災害時の対策は毎月訓練を行い意識付け、非常食も常備されています。地域の協力体制の一環としてコンビニを活用し、関係性も築いています。	過去の被害状況の確認を今一度行い把握することで、より安全性への意識向上になるのではないのでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者1人ひとり尊重することを念頭に置き対応している。排泄、入浴などはプライバシーに十分に配慮し、出来る限り同性でのケアを行っている。必ず敬語を用いてコミュニケーションを図っている。	排せつや入浴などプライバシーに配慮され、希望時には同性者が支援するなど、人格の尊重に重きを置いています。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけが随時の対応に表現されます。職員がそのことに気づき意識を持つことでスキルアップにつながるよう、今後も望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の様子から気付けるよう密にコミュニケーションを図り、自己決定ができる様に選択肢を増やしたり、傾聴する等、工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、朝の挨拶時に入居者の希望を聞いたりし、おやつ作りや外出を取り入れる等、支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや入浴時に希望の服を選んで頂いている。外出時や催し時など行事の内容や気分に応じて化粧等が出来る様に支援している。散髪は希望に応じて家族に依頼するか、ホームで理容師に来て頂く調整を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、法人の管理栄養士が献立を作成している。旬の食材を活かして、ご利用者と相談しながら一部変更も行っている。食事の準備(野菜の皮むき、野菜の切り込み、お米とぎ)、食器の片づけなど個々の能力に合わせて一緒に行なっている。	食事が楽しみになるよう利用者の力を活かしながら一緒に準備をしています。またメニューは利用者の意思を取り入れながら柔軟に対応し、おやつ作りも一緒に行われています。	おしゃれなメニュー表を作成することで日々の楽しみの支援に繋がるのではないのでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の確認、毎月体重測定を実施し、かかりつけ医に報告している。体重増減に応じて食事の量を調整し、人により食事形態を変え、必要に応じ栄養補助食品を提供している。水分摂取量の少ない方は飲水量のチェックも行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時、毎食後、就寝時に個別に職員が付き添い実施。個別に専用のブラシ、歯間ブラシを使用している。義歯に関しては就寝時は洗浄を行なっている。嚥み合わせや、飲み込みが悪い時など必要に応じて歯科医に相談し、訪問指導が行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間週間表に排泄状況を都度記録し、排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導・パッド交換を行っている。必要に応じてパッド使用、可能な限り下着を使用できるように支援している。	排泄つのパターンも記録で把握し、統一したケアにつなげることができています。退院後の利用者には同法人内のリハ科にて運動プログラムを作成し、排泄動作等の回復を図っています。	退院後の日常生活改善において、運動プログラムがケアプランに活かされるような支援システムになることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は決まってはいるが、おやつ等を利用して、繊維物や乳製品を多く取り入れたり、日中は個別にも運動を行っている。毎日行っている集団体操には排便を促す運動を取り入れている。排便困難者には下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がられる方にも週2回以上の入浴をして頂けるように声掛けの工夫や時間の調整を行なっている。入浴中はマンツーマン対応の為、ゆっくりとコミュニケーションを取る事が出来ている。	ゆずや菖蒲等利用したお湯を季節ごとに味わえるよう工夫したり入浴剤を使用するなど、入浴が楽しめる支援をされています。	地域の特産物をもっと利用できるといいですね。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に合わせて就寝支援を行なっている。居室環境はお一人お一人違うので、ニーズに合わせた空間作りを行なっている。日中の休息も希望に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては用途、副作用、禁忌食などを理解したうえで支援を行っている。内服変更時は全員に周知し、症状の変化等を記録に残している。誤薬が無いようにセット時はダブルチェックを行ない、与薬時は呼称確認を必ず行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作活動やカルチャー活動、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おやつ準備など役割が分担できている。飲食物はお菓子、コーヒーや紅茶等、意向に合わせて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってできる範囲内で近隣への散歩や外出など行えている。本人様の希望をご家族へ相談し、外出の日程調整や付添いの支援等を行なっている。	近隣への散歩や外出など、本人や家族の希望に沿えるよう支援しています。また外出の調整や付き添いの支援も行っています。	恵まれた環境を活かし、庭にベンチやテントや日よけなどを置き、気軽に全員が散歩に出れるよう検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には外出の際に、職員付添いで買い物の支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際は、その都度対応している。希望に応じて手紙等の作成、郵送の支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオの音量は調整し、入居者に不快なような気をつけている。トイレの臭いや汚れ、食堂の清潔保持には特に注意して環境整備に取り組んでいる。窓から見える木々の移り変わりを見る事ができ、四季を感じられる良い刺激になっている。	事業所全体静かで、よく整理整頓され清潔感を感じられます。ゆっくりとした時間が流れ、落ち着いた生活を送られています。	花を飾るなどして日々の楽しみ、遊び心が心の余裕となり、優しい環境、優しい人間関係作りにつながるのではないのでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに畳のスペースがあり、横になれたり、音楽を聴かれたりしている。テーブル毎になじみの関係があり、ご利用者同士の会話は少ない場面では職員が間に入りコミュニケーションを図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や自宅で使われていたタンスを持ちこまれ、家族の写真等をお部屋に飾られている。趣味等も継続して楽しめるように居室内の環境に配慮している。	入居すぐに本人や家族と相談をし、必要な本人の希望する家具や道具は準備されています。	利用者のその人らしい部屋作りができるよう、季節感や生活感などを感じられるような空間作りに工夫をしてみたいかかでしょう。今後の工夫を期待しています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりも設置しており、教室や共同のトイレは車椅子でも十分な広さがある。各居室には表札があり、すぐ自分のお部屋だと分かる様になっている。食席は自分の椅子が分かるように工夫をしている。		